



障害の重い利用者

～本人の希望に寄り添う支援～



「生活の質を高める」ための支援として、リハビリテーションを展開しています。しかし重度の運動機能障害を抱えた利用者にとっては、「自分のしたいことを、したい時間にする」こと自体、難しい課題となります。今回、「起きてTVを見たい」と話された利用者に対して医学的評価を行い、支援した事例を紹介いたします。

自宅での課題

パーキンソン病発症後、徐々にADLの低下・血圧の変動があり、妻の協力の下、在宅生活を継続されていた。上部消化管出血による入院で全身状態が悪化し、離床時に起立性低血圧を認め、離床確保が困難である事に加え、関節拘縮や下肢筋力低下により移乗時に重介助を要する状態で、妻の介護負担は大きかった。

本人の希望

「起きてTVを見たい」との希望があったが、起立性低血圧により離床時に血圧が下がり、意識低下を引き起こす可能性が高かった為、訪問リハと共有し、まずは安全な離床と、時間の拡大を目指した。合わせて膝関節・足関節の拘縮予防・改善目的に訓練を実施。血圧の安定、膝関節の可動域が改善し、支える物があれば立位も安定でき、妻一人での介助方法を訪問リハと検討し、リハ会議時にご家族へ移乗の動作指導を実施した。

介入後の様子

パーキンソン病の影響により血圧の変動はあるが、離床時の血圧低下はなく、移乗も妻一人で行えている。車椅子で起きて過ごす時間も増えたことで、本人も「次は車椅子を漕いで移動したい」「一人で移乗したい」と前向きな発言があり、車椅子自走の練習や更なる可動域・筋力の向上を目指し継続した訓練を実施しています。

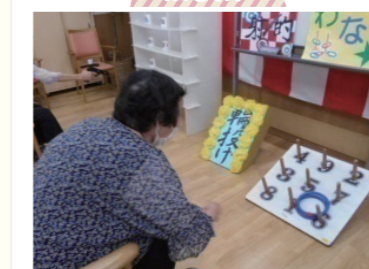


催しごとや作品の展示会を通して、利用者間の交流に繋がり、皆さんで楽しいひと時を過ごす事ができました。

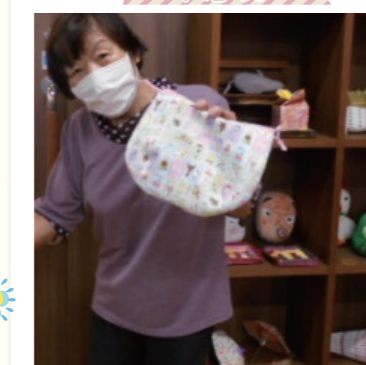
射的



輪投げ



巾着袋



作品の展示会



射的や輪投げでは笑いながらも得点を競い合う姿は真剣なご様子でした。高得点の方に巾着袋をプレゼントさせて頂きとても大好評でした。

作品紹介 貼り絵

手が言うことを聞かないので、何もできないと思ってたけど見栄えのいい物ができました。手の運動だと思って、次も挑戦してみます。(御所市 K氏)



介護老人保健施設鴻池荘 TEL.0745-64-2180

受付時間 9:00～17:00 担当者：相談員 FAX.0745-62-1092

